

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



渾源县呉城村のアンズが美しい花を咲かせた。今年は豊かな実りをもたらしてくれますように。

### Contents

- 第14回会員総会のご案内 ..... P 2
- なんでも勉強会『アフリカをたずねて』報告 ..... P 2
- 春の黄土高原から(ワーキングツアー報告) ..... P 3~6

2008.5

121

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

# 緑の地球ネットワーク 第14回会員総会のご案内

GENの緑化協力地・大同はながく経済発展から取り残されていましたが、開発の波はいよいよ大同にまでやってきました。北京や上海には遠くおよばないものの、大同市中心部はしばらく見ないと見違えるほどの発展ぶりです。

それにとまなう、物価や賃金の上昇もすさまじいものがあります。1年で数倍ということもめずらしくありません。GENにとっては、賃金の上昇が最大の問題です。資金面はもとより、今春の

繁忙期にも、環境林センターやかけはしの森などでは十分な労働力を確保するのが困難な状態でした。発展は嬉しいことですが、小さなNGOには思いもかけぬ問題がでてくるものです。

そうした事情を共通に認識し、GENなりの協力活動を模索する場でもある会員総会に、ぜひご参加ください。

今回の記念講演は、世界の乾燥地でながく緑化の研究をつづけておられる岡山大学の吉川賢さんに、植物と水と

のおもしろい関係について話していただきます。

【緑の地球ネットワーク

第14回会員総会】

●日時：6月21日（土）13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時  
『植物による土壌水分の輸送』  
吉川賢さん（岡山大学教授）

○会員総会：15時20分～16時40分

●場所：大阪市立総合生涯学習センター  
第1研修室（大阪駅前第2ビル5階  
各線「梅田」駅、JR「大阪」駅/  
東西線「北新地」駅）

●総会終了後の懇親会は調整中です。

## GREENなんでも勉強会 アフリカをたのねて

### アフリカ大地溝帯とサバンナ・熱帯雨林 報告

前川 宏（GEN世話人）

黄土高原ワーキングツアーに11回の参加をほこる石原務さんは、アフリカにも足繁く通っておられます。その体験を聞こうと、4月22日、弁天町市民学習センターに28人が集まりました。

白ひげの鉄人、石原さんはアフリカにも何度も行き、昨年はリビア砂漠に出かけられました。

その石原さんがアフリカの話を読めると知り、映像を駆使した珍しい旅の物語を聞けると思いました。

ところが、予想は見事に外れました。

大陸プレートがマントルの上を漂い、現在の大陸が形成される所から話は始まりました。アフリカ大地溝帯にビクトリア湖があるのは知っていましたが、それが、紅海（割目）にまで連なっているとは知りませんでした。

話は時間的にも空間的にも壮大なものです。

大陸プレートの割目ができて谷になり、そこにマグマが噴出して山脈を形成し、山脈が雲の流れを遮り、遮られた東にサバンナが形成された。その様な時期に、そこに人類が発生したと続きます。現在の人類の祖先は一時、環境の変化により2万人程に減ってしまったそうです。

そこで、遺伝子のお話になります。これだけはプリントが用意してありましたが基礎知識がないのでよくは理解できませんでした。しかし、人類はア

フリカで誕生し、同一の遺伝子を共有しており、地球上の他の地域に散らばっていったという説明かと思いました。

溶岩流の上に親子が手をつないで歩行した足跡の化石が残っているの、その時代に人類がいたことが分かること。柔らかい溶岩流だと熱くてやけどしないのかなと思いつつ人類誕生の話をお聞きしました。

勉強になり、気宇壮大になるお話でした。次回が楽しみです。

## 助成・寄付など

●積水ハウスマッチングギフトの会と積水ハウス株式会社から、合わせて130万円のご寄附をいただきました。

●日本経団連自然保護基金から、420万円の助成が決定しました。（「中国大同市における多様性のある森林再生のモデル作り第3期」）

●（独）国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業（草の根パートナー型）の2008年度委託事業費として、1,298万円が決定しました。（「太行山地区における多様性のある森林再生事業」）

ありがとうございます。

## GEN自然と親しむ会 初夏の京都府立植物園見学

●日時：6月1日（日）10時植物園正門前集合、15時ごろ解散

●場所：京都府立植物園（京都市左京区下鴨半木町 TEL.075-701-0141）

●参加費：700円（保険料を含む。入園料一般200円は含まない）

●案内：立花吉茂さん（花園大学客員教授・GEN代表）

●申込：5月28日までにGEN事務局に。

●持ち物：お弁当、飲物、あれば植物図鑑。歩きやすい服装と靴で。

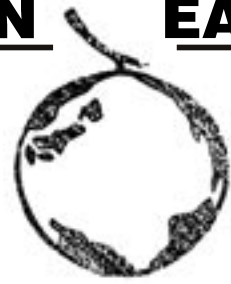
京都府立植物園は京都市街地の北部に位置し、開園から80余年、京都の人々に親しまれています。

園内には、植物生態園、日本の森、宿根草・有用植物園、温室、各種園芸植物などが整備されていて見どころいっぱいです。

植物のあらゆる分野にとってもくわしい立花さんの案内で、楽しく植物の知識を広げませんか。誘い合ってぜひご参加ください。

# 春の黄土高原から

## ワーキングツアー報告



今春の大同は雨が多く、気温の上下が激しいという植樹には忙しい気候で、春の作業とツアー受入に大同事務所はフル回転。

夏のツアーを派遣しないため、そのぶんが春に集中しました。GENのワーキングツアー（3/29～4/8、30人）、イオン労組とサントリー労組の合同ツアー（4/12～17、27人+11人）、ローソン（4/14～19、16人）、東北電力総連（4/15～22、20人）、自治労大阪府本部（4/24～28、20人）です。GENのワーキングツアーはいつものように日誌から、また、イオン労組、サントリー労組、ローソンのツアー参加者からよせていただいた感想を紹介します。

### 【3月29日】関空→北京→霊丘県

●空港より50分ほど走ると雪が見られた。居庸関では、桃の花が咲いていた。さらに行くとい八達嶺のトンネルを抜け官庁ダムに着いた。ここでトイレ休憩。風車が回っていた。そこを出ると北京に向かう道路が渋滞でこのためか高速道路を逆行している車が目立った。河北省で高速を出て南西方面に向かう。車から見ると広い畑にポツリポツリと人がいて畑を耕している。まだ、ここでは機械化が進んでいないのだが本当に広い畑を人力で耕すのは容易なことではないと思った。私も少し家庭菜園をしているがとてもこの広さを耕すことはできそうにない。

17:50 河北省より山西省に入る。ここらあたりの道路をみると道路側より数mの幅でポプラあるいはモンゴリマツが植えられ数年経過している。最近聞く中国の緑化の退耕還林成果であろうか。（秋江敏弘）

### 【3月30日】霊丘自然植物園

●徒歩約30分で植物園管理棟に到着。植物園の管理責任者の李さんから植物園の概要と設定時の1999年から10万余本の植栽を行ってきたこと。設定時に50種程しかなかった木本類とあわせて1000種を目標にしていることなどの説明がありました。その後植樹作業に移り、イタヤカエデ、ヤマモモ、ライラッ



春の霊丘自然植物園

ク、レンギョウ、アブラマツなど200本を植樹。（中略）

私にとっては6年振りの植物園であるが、シラカンバ、リョウトウナラ、アブラマツ、トネリコ、ニンジンボク、ハシバミなどの成長が著しい。シラカバの最近の年の樹高成長は1m以上、リョウトウナラもびっくりするほど太く大きくなっている。森林の回復と共に植物園内にある池への水の流入量も増加しているとのこと。（中略）

私は今回ツアー5回目の参加ですが、今回参加の最大の目的は自然植物園の天然林の生育状況を見ることでした。自然の回復力の力強さを感じ、長い年月の先にはなりますが、うっそうとした森林とそれが南斜面にも及び沢に水が流れる日を想像し、願望する楽しい1日でした。（棟方鋼男）

### 【3月31日】霊丘県上北泉村

●8時半出発。9時半までに着くはずだったのだが、渋滞にはまる。パトカーの先導でお先にごめんって感じでなんとか進んだものの、1時間半以上の遅れで11時頃やっと到着。その間バスから風景を堪能したし、歌唱指導してもらったりと、我々のはんびりだったが、着いてみれば、小学生がずらっと並んで待っていてくれて、長いこと待っていてたんだなあとしりわけない気分だった。太鼓や踊りで歓迎してもらったものの、時間がなくて、挨拶もそこそこに植樹。ポプラの木を20本ばかり植えて30分で終了。（中略）

昼食後、「小学校付属果樹園」を歩いて見学。アンズのつぼみがかかなりふくらんで、あと10日もすればきれいだろうなと思わせる様子。最近観光に来る人もいるという話もうなずける景色でした。山の上まで棚田のようにずーっと植樹してあって、雄大な眺めで、日



上北泉村での歓迎のようす

本なら、さしずめここが水田の風景だろうなと思いました。

1周して、小学校で交流歓迎会。歌や踊りで歓迎してくれました。長い間練習してくれただろうに、電気の具合が悪くて、最後の踊りができなくて、一緒に歌を唱って終わりに。

帰りは渋滞もなくスムーズに帰還。30分の植樹だけで、迷惑をかけに行きたみたいと思ひながら、予想外の大歓迎でびっくり。先達の方々のご努力がこの歓迎につながっているのだなと今までの方のご苦勞に感じ入りました。（高田公代）

### 【4月1日】渾源縣懸空寺→呉城郷

●いくつかの小さな集落やヤオトン跡の残る山腹、道路脇の植栽の様子等を車中から眺めながら呉城村へ。

ここは、GENと村民の努力が実を結んでいる村のひとつで、黄土高原の一帯に、あんず畑が広がっている。

今はまだ、つぼみも固いが、黄土に木の緑、あんずの花のピンクと白が映える様は、まさに桃源郷（杏だけど）かと想像してみる。次は花見に来るぞー！

巨大な岩板のしゅう曲や浸食谷の連なる高原、そこに生活する人々。自然と人の営みの調和は、本当に美しく、平和な気持ちを喚起する。

なるほどGENの活動は平和の運動で

もあるのだ。

今回、まねごとだけでも、その一助になれたらウレシイナ!! (向井美香)

●呉城村は聞きしにまさる、黄土地形。深さ 100 メートルもある侵食谷があちこちにあり、とても農耕に向いているとは思えなかったが、苦心の末、一面杏畑に。4 月下旬の開花期には 1 万人もの花見客がおしかけるそうだ。

トウモロコシなどを栽培していた以前に比べ、1 ムーあたりの収入は 100 元から 1,000 元以上になったそうで、これも高見先生のおかげと感謝していた。

一面のはるか向こうまで続くアンズ畑が満開になったときはそれはすばらしい光景だろう。(中村英)

**【4 月 2 日】白登苗圃、かけはしの森、采涼山、カササギの森**

●白登苗圃に向けて出発。大同の朝は少しもやがが掛かっているものの雲ひとつない青空。100 両ぐらいの石炭列車、穀物倉庫、白登山をながめながら白登苗圃に到着。寒さと強風の中、トウヒ、モンゴリマツ、アブラマツ、シダレニレ、マイカイ等の育苗の状況を教えていただき、その後、道の両脇に 70 本程度の 40cm ぐらいのトウヒの植林体験をさせてもらいました。次回この場所に来た時には、どれだけ成長しているのかが楽しみです。

食事後、カササギの森へ向かう。1999 年植林プロジェクトが始まるが、当時は荒地、はげ山……こんな悪い条件のところでも乾燥しやすい南斜面でも木が育つことができれば、どんな土地でも植林ができるという期待から、この地に決めたのだと。高見先生、遠田先生をはじめ、みんなの力を合わせてプロジェクトを進めていく。それから 8 年間、GEN や村民の継続の努力の結果がこの斜面のマツの成長に表れている。まだまだ小さなマツがいつの日にか「カササギの森」に成長することを願っています。(山下博史)

**【4 月 3 日】雲崗の石窟、環境林センター**

●9 時すぎに雲崗石窟に着く。風向きによって汚染大気が強くにおう。周辺の植栽木は元気がない。ここで見たスズメは色が黒い。汚れているのか、石炭に合わせた色変わりか。キレンジャクの群がコノテガシワの球果を食べて

いるのは印象的。(中略)

11 時 30 分、石仏に別れて環境林センターへ。12 時 10 分着。ここで昼食。ちゃんとした中国料理が出てきたのにはびっくり。1994 年から計画・実行に移した話、コークス工場計画地を借り受けた話、いろんな人脈に助けられてここまで来た、などの話を聞く。ここでも水に苦労し、住宅地からの排水を苗の育生に使う話、そのために土地が富栄養化して、広葉樹にはよいが、針葉樹の生育にはよくない、温室で育てる必要は何か、の問いにいろいろなものを育てて体験することの重要性を聞いた。

ここに植えられたリョウトウナラは 3.5 m に伸びており、カササギの森の同級生との違いがきわだっていた。ここではシダレエンジュを 350 本植えた。植え穴はすでに掘られていたが、80 本ほどの掘り取りは労力が要った。ここでの植立苗がまるで挿木のように根がはだかで切られているのを見ておどろいた。大型トラックと「タキギ」を山積みと見たのが植える苗木であることがあとでわかった。これになじむには少々時間が要りそうである。(高田直俊)

**【4 月 4 日】北京**

●今年から始まった清明節の休日とかで天安門広場も故宮も観光客の人の波で溢れかえっていた。(中略) 4 月の陽光の下、中国の庶民の幸福を見る気がした。故宮の中は足場を組んでの大規模な補修工事が各所でおこなわれていた。オリンピックを前にした、突貫工事という所か。

八達嶺に着いてまた驚いた。長城の入口のところから見上げる長城は、城の上の道幅 (4m ぐらいか) 一杯に昇り降りの人波に埋もれていて、延々遙か彼方まで続いている。そんなことに臆することのない我がメンバーは、それぞれ右へ左へと人混みの中へ消え、思いおもいに長城の登坂を楽しんだ。

長城のふもと、山の中腹に自生するヤマモモ (野生の桃) が所どころで開花して、春の訪れを感じさせた。

北京への帰り道。高速道路の両側に植えられた柳やポプラはもうすっかり若葉が芽吹いて、その先に広がる都市の姿を、我々の眼から遮ろうとしてい

た。1 週間前に大同へ向かうときに見た樹々の芽はまだ黒く固く、街並みはあらわであったのに。

バスは北京の中心部へ進んでいく。昨日まで居た大同の喧噪や無秩序、猥雑さはここにはない。行き交うトロリーバスや大型バスは、程よい数のお客を乗せて静かに動いている。乗用車は新しく綺麗だ。あれ程あった自転車やリヤカー、人の波はどこへ消えたのか。歩道まではみ出して営まれていた市民生活も市の中心部では見当たらない。(松園譲)

**【4 月 5 日】帰国**

●今回 11 回目のツアー参加である。今まで何回も聞かされ、自分でも納得していたはずのことを今回事実として突きつけられまさに実体験することができた。媒体は残雪である。今まで春に 5 回来ているが積雪にであったのは今回が初めて。それは山の北側斜面にのみ雪が積もっていたこと、畑の畝の北側のみに残雪があったことである。最初来たとき現地の模範植樹者が執拗に「畝の北側」にこだわる理由が理解できなかった。私は百姓の生まれ育ち、子どもの頃から植樹の経験は豊富。それでも植樹で北側などという言葉聞いた憶えがない。(中略)

それが今回は山の北側斜面にのみ残雪、畑の畝は東西に立てられ、畝の北側にのみ残雪を見た。模範植樹者はこのことを言っていたのだ。事実を突きつけられるまで実感が湧かなかった。想像力不足に忸怩たる想い。(中略)

采涼山プロジェクトの推進者、張春書記が断言した。「機械も金も要らない。人だ。人こそ何でもできる」と。私は、彼の人の日焼けした豪快な顔にみなぎった心意気を今も忘れない。あの 200ha のカチカチに固まった黄土を農民がスコップ 1 本で畝立てして、苗を植え付け、事後の厳しい管理を果たし、ここまで育て上げた。彼らは山の北側斜面に植物が育ち、森を作ることを熟知していて、植林に当たって東西に高畝を立て、北側の日陰に小さい苗を植え付け活着させることに成功したのだ。(石原務)



## 大切なことはどこでも同じと実感

帰路の大同から北京への夜行列車では、軽い腹炎による微熱で一晩うなされての帰途となってしまいました。その為もあってか帰国後翌朝の自宅での目覚めは少し奇妙な気分でした。あたり前のように日常の世界に戻り、風呂に入ろうと蛇口を捻ればお湯や水が勢いよく流れだす様を見て、「昨日までいた世界はいったい何だったのか!」「夢

藤田 幸士 (イオン労働組合)

でも見ていたのか!？」と思わされるくらい、わずか数日間でしたが自分にとっては強烈な体験でした。また、大切なものをいただいてきたという気持ちにもさせてもらえた体験でした。

それは、日本での日常生活からかけ離れた世界、異体験をさせてもらった!!と思う一方で、大切なことは中国でも日本でも同じなんだと思わせてもらったからでした。山村での現地の人たちとの植樹作業や交流会では本当に可愛い子どもたちの瞳に心洗われる思いがしました。植樹というものは常に成功するものではなく、良いリーダーがいるところ(村)でないと成功しないというお話も聞かせてもらいました。果樹の植樹には果実が実るまで数年間は無収

穫で我慢しないといけない期間があり、厳しい条件の下ではこれが待てずに諦めてしまう場合もあるということです。最初は何もないところから自分の思いや夢を語って皆を導きだすことができたリーダーがいたところははじめて成功するというものでした。なんとも勇気付けられる話でした。また、これら本当に過酷な条件の中で志を持ち続けて植樹活動を続けておられる GEN の皆さんの姿にも感銘を受けました。さらに自分たちの先輩も含めこれまでの多くの人たちの活動の積み重ねによって植林、発育が進行中であるという広大な植林地を見せつけられた時には、人の力の積み重ねの力強さみたいなものを感じさせられました。「大切なことは地球上どこにいても同じなんだ」となにか広い幸せな気持ちにさせてもらいました。



外務省草の根無償資金協力で掘った井戸の通水式に参加 (遇駕山村)

## 新しい試みでさらなる可能性を発見

石倉 英一 (サントリー労働組合)

「来年は北京オリンピックの影響で、夏のワーキングツアーが開催されないかもしれない」。

ここ数年、毎年夏のワーキングツアーに参加してきた我々にとって、これは大変な問題です。SARSの影響で中止した2003年以來のことで、半ば断念を覚悟したのは、昨年の秋でした。

それでも何とか参加できないものかと思案を重ね、すがりような思いでイオン労働組合様に「共催」のお願いを申し出たのが昨年末。「果たしてこんな酒飲みばかりの団体と一緒にボランティアに行こうなどと思っていただけなのだろうか…」と、半分あきらめていたところ、なんと「OK」のお返事。「これで、今年もツアーに参加できる!」という喜びに浸りながらも、「協調性に欠けるウチの組合員が、イオン労組様にご迷惑おかけせずに1週間すごせるだろうか…」という新たな不安に襲われ、4月の出発当日まで悶々とした日を

過ごしたのでした。

しかしツアーが始まった瞬間、そんな不安も一気に吹き飛びました。

大地を耕し、村の人々と交流し、井戸の完成を共に喜び、そして夜は酒にまみれ……、今年も、心に響く本当に素晴らしい1週間を体験することができました。そして何よりイオン労組の方々とこれらの体験を共有できたことが、一つひとつをより印象深いものにしたことは間違いなく、参加者は例年の単独開催よりも、はるかに上回る多くのものを得ることができたと感じています。

皆様にご無理を申し上げて実現に至った「共催」でしたが、結果的に新しい視点で考える貴重な機会になったと感じています。我々がもっと主体的にこのツアーの役割や意義につ

いて考え、工夫をすることで、さらに素晴らしいものに昇華させることができるのではないかと。今回の「共催」は、その一つの形と捉えることはできないだろうか。そういった視点で、今後も我々にとってのこのツアーのあり方をしっかり考えたいと思います。このようにたくさんの思い出とともに、大きな宿題をもらった1週間でした。

最後になりましたが、イオン労組の皆様、GENの皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



上北泉村の農家で記念撮影

『ニーハオトイレ』と『Are you speak English?』

原 千恵 ((株) ローソン 近畿KC)

今回の中国大同市へのワーキングボランティアでは考えさせられることがたくさんありました。北京から6時間強もバスに揺られて田舎の村へ行ったのは初体験です。私の人生の中でも貴重な経験のひとつになるにちがいありません。

まず驚いたのがトイレ!! 庭の端をレンガで囲い(高さ約150cm)、大きな

穴が掘ってありそこに板を2枚渡しただけ。私の好奇心もすごいもので2日目から全部のトイレに挑戦し制覇しました。乾燥した気候で臭いが気にならなかったのが救いだったのでしょうか。ちなみにドアもなく次に入ってきた人と顔が合い「こんにちは」ができるトイレを、私達ローソン集団は『ニーハオトイレ』と名づけました。

次に驚いたのは子どもたち。一緒に植樹に行ったとき少しはにかみながら笑顔で一生懸命『Are you speak English?』と片言の英語で話しかけてくれました。自分で勉強したのだそうです。村の子どもたちは貧しくて与えられるものが限られていて、学びたい! 知りたい! 便利なものが欲しい! と思っても、その環境がないのだと実際に目で見て感じました。だからこそ一生懸命

命になれるのか? ならざるを得ないのか? と考えさせられました。逆に日本は与えられるものであふれています。情報も山のように錯綜していて選ぶことも困難、子どもたちは強制的に勉強(塾などで)している場合もあります。若い世代にもうつ病やひきこもりの状況があるのも事実です。どちらが幸せなのかは分からないが私自身が今何をすればいいのかを改めて考えるきっかけになりました。

収入につながる実のなる樹を学校に植えること。また砂漠化した場所に針葉樹を植えて災害を防ぐこと。それを広い目で見て良い自然環境・社会環境になっていくのかを見守っていく。そんなボランティアを長年続けているこのツアーに参加したことは大変意義のあることでした。

最後にいろいろ説明、先導して頂きました緑の地球ネットワークの方々、そこに関わる皆様、またこのツアーで出会えた方々に感謝します。皆さんと出会えたこと、中国での体験は宝物のひとつになりました。ありがとうございました。



好奇心いっぱいの村の子どもたちと交流

黄土高原史話 <40>

都はどこに置くべきか

谷口 義介 (摂南大学教授)

本誌『緑の地球』は公称つまりサバを読んで1700部発行と。このうち80部ほど中国へ送付の由。そういえば何年かまえ大同で、『史話』、読んでますよ」と言われたことが。

ダラダラ続いて本シリーズ、数回まえから後漢時代に入ったが、中国では前漢・後漢とは言わず、西漢・東漢と。それぞれの都が、西の長安(陝西省西安市)と東の洛陽(河南省)にあったことによる。それよりはるか昔、今の西安市西郊の鎬京から現洛陽市内の洛邑へと都を遷した周王朝も、西周・東周と呼ばれます。もっともそれは後世の史家の便宜のためで、みずからは堂々「周」とか「漢」とか称しているが。

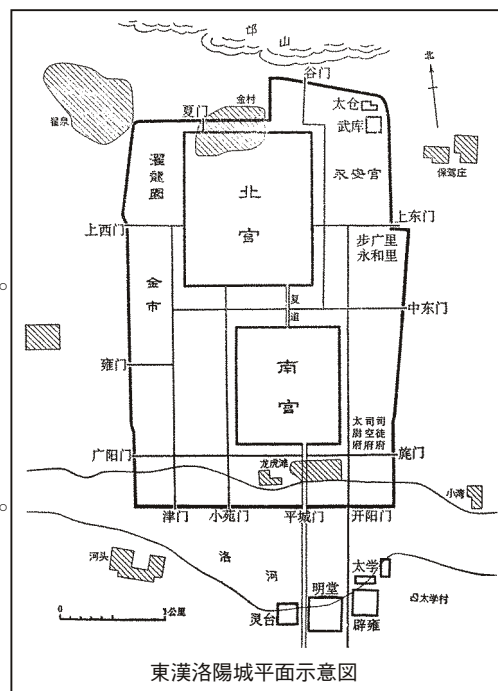
ちなみに長安も洛陽も、本シリーズの考えでは黄土高原の範囲内。そこで今回は、前漢・後漢における首都選定

の事情について。

それに先立ち、まずは項羽の話から。B.C.206年、関中(陝西省中部)に入り秦の都咸陽を陥した項羽、ほぼ天下を手中にするが、「この地は山河に距てられて四囲ふさがり、土地も肥沃。ここを守れば磐石なること必定」との上言を却下。故郷に錦を飾りたいとて、彭城に都する。しかしここはオープン・ランド、四方からの敵を受け、あっけなく陥落。つまり、地方出身の社長が本社ビルを郷里に建てたようなもの。そんな会社は倒産します。

さて、B.C.202年、宿敵項羽を倒して皇帝となった高祖劉邦、とりあえず洛陽を都とし、そのまま正式な首都とするつもり。東周以来の王城の地ということもあります

が、じつは自身も部下もおおむね山東省の出身で、郷里とさして遠くない。ところが或る人献言して、「関中こそは要害を占め、物産も豊か」、と関中首都



東漢洛陽城平面示意图

論を展開する。高祖の信頼最も厚い張良も、「洛陽も山河に囲まれてはいるが、狭すぎるうえ、地味も良くない。これでは攻められたとき耐え切れぬ。これに比べて関中は天険に囲まれ、沃野千里。しかも軍馬の産地に近い」と、その説を補強する。高祖ハタと膝を打ち、西を指して出立する。つまり観念論・感情論をしりぞけて、軍事的・経済的観点から、都を長安に定めたわけ。

では前漢 200 年のあと、後漢はなぜ洛陽に都を置いたのか。

A.D.23 年、王莽殺され、更始帝劉玄、

洛陽を都とす。

24 年、更始帝、長安に遷都。

25 年、赤眉<sup>せきび</sup>の農民軍、長安に入城し、更始帝を降す。

同年、光武帝劉秀、洛陽を都とす。

26 年、光武帝、赤眉軍を破り、関中を平定。

しかしこのとき長安は、更始帝を殺した赤眉により徹底的な破壊を受け、「都城みな空しく、白骨野をおおう」という惨状。こうした状態では、かりに長安に移るつもりがあったにせよ、洛陽に留まるほかありません。

しかも前漢末には洛陽は、長安よりむしろ繁栄。陸路・水運の便により、南方・東方の物資が運ばれる。そのうえ光武帝政権を支えていたのは、洛陽南方の南陽の豪族たち。学者のあいだには、先秦以来の洛陽王都論も根強くあった。

そんなこんなで洛陽は、後漢の都となりました。

しかし、外から攻められやすい地形のうえ、外戚の弊もあり、政権は半ばころから不安定。三国時代の動乱へと続きます。

## 植物屋のこぼれ話 (続編) その 19

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

### ヤシ二題

沖縄原産のヤシ科植物を調べていたら、昔ハイビスカスの調査に行ったインド洋方面の面白いヤシを思い出した。それはちょっとエッチで愉快な話題である。インド洋の中心部にあるセイシェル諸島のなかのプララン島にのみ生える珍果フタゴヤシ(双子椰子)とインド方面のパルメラヤシである。

#### ●フタゴヤシ(ダブル・ココナッツ)

雌雄異株で、成木は高さ 30m にもなり、約 25 年で結実するが開花後熟するまで数年かかる。珍果といわれるのは食べておいしいだけでなく、その形がヤシの実を二つくっつけたようで、女性の腰の部分にそっくり、という点である。ふっくらとした凹凸と肝心なところはヘアーまで生えているという念の入りよう。雄花の房もまた男性のものにそっくり。保護地のトイレには雄



女性用トイレの入口

花と果実を張り付けて男女がわかりようにしてあって、訪れる観光客をニヤニヤさせていた。

このユーモラスな形から、このヤシにまつわる伝説も多い。アダムとイブの禁断の実はリンゴではなくこのヤシの実だとか、この島がアダムとイブの住家であったとか、たわいないものだが。古来インドでは精力剤として珍重されたといわれ、極めて高価なものであったらしい。今では国外持ち出し禁止。土産ものとしての販売は政府の専売、ちなみに果実 1 個 2 万円相当だった。私を案内してくれたお役人は、半熟のジェリー状態の果実を食べさせてくれて「世界最高額のゼリーだ」と言って笑った。

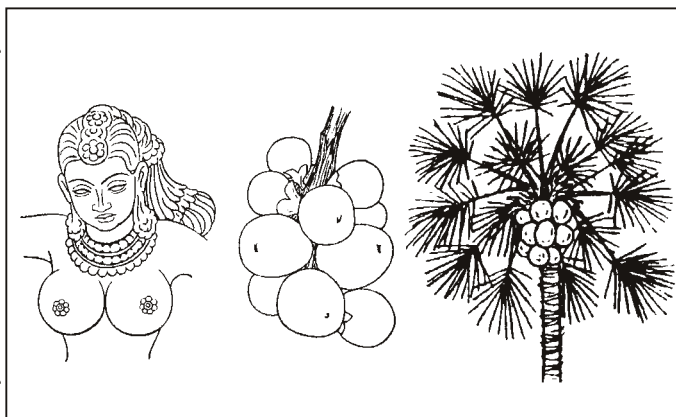
#### ●パルメラヤシ(オオギヤシ)

インドを中心にして広く分布する扇状の葉をつけるヤシで、アフリカにも分布する。雌雄異株で、果実は丸く、直径 12 ~ 18cm ほど、10 個以上群がって着果する(図)。インドの紀元前 500 年頃の神話ラーマヤナのなかで、ラーマ神は奪われた妻のシータをしのび、このヤシの実を見

るたびに妻の胸のふくらみを思い出した、と伝えている。シータは図のような立派なポインの持ち主であったに違いない。

パルメラヤシは花序を傷つけ、流れ出る樹液をミルク代わりに飲んだり、煮詰めて砂糖にしたり、発酵させてヤシ酒も作る。このように有用な植物であるが、インドで聖木としてあがめられるのは、このヤシの葉を紙に加工し、経文を写したからであるといわれている。経文を書いたものは 400 ~ 500 年も保存がきき、そのような古文献が多く残っていて、今でも紙として使うところがあるらしい。このほか、葉柄からブラシ用の繊維を取り、小葉はマット、うちわ、帽子、バスケット、サンダルなどを編み、屋根葺き材料ともする。また長い幹に穴をあけて導水管としても重宝するという。

このヤシの砂糖は上品な味で、コーヒーに入れてとてもおいしかったことを覚えている。





変えよう  
ニッポンの国際協力

日本のODAについて学び、世界に役立つODAをつくっていくために何ができるか考えます。

【わたしたちとODA】

●日時：5月31日（土）14時～17時半

●講師：贅川恭子さん（WE21 ジャパン）

【ケーススタディ@東南アジア】

●日時：6月6日（金）18時半～21時

●講師：木口由香さん（メコン・ウォッチ）

【ケーススタディ@南アジア】

●日時：6月14日（土）14時～17時半

●講師：田辺有輝さん（「環境・持続社会」研究センター）

【ケーススタディ@アフリカ】

●日時：6月20日（金）18時半～21時

●講師：大林稔さん（TICAD 市民フォーラム）

★場所と参加費は全回共通です。

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

●場所：興正会館（京都市下京区七条通堀川上ル興正寺境内）

●参加費：各回1,000円

●問合せ：（特活）関西NGO協議会  
（〒550-0013 大阪市北区茶屋町2-30  
tel. 06-6377-5144 fax. 06-6377-5148

e-mail : knc@ak.wakwak.com URL

<http://park15.wakwak.com/~knc/> ◇

<http://odanavi.jugem.jp> から申込みできます

たまねぎのご案内

柑橘でおなじみの高知の田中さんから、今回はたまねぎのご案内です。

◎たまねぎ（低農薬、有機肥料）

○赤たまねぎ 5kg 2,500円

○白たまねぎ 5kg 1,800円

（送料別途・関西630円他（20kgまで）

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GEN

の会員』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203

（TEL/FAX 0887-29-2500

E-mail : tanakan@sky.quolia.com）

編集後記

◇GW期間中の中国への旅行者は、昨年の60%にとどまったとか。緑化協力ツアーさえ、中止になったものがあったそうです。そんななか、大同には170人近くの方が訪れ、木を植えて、村の人たちと交流してくれました。ありがとうございます。

◇12日に四川省をおそった大地震。大同もかなり揺れたそうです。阪神大震災よりはるかに大規模ということですが、ちょっと想像が付きません。ミャンマーのサイクロンといい、大規模災害が相次ぎます。被災地に一刻も早く救援の手が届きますように。（東川）